

がんばってます 青年部!

京都青年中央会の野本会長と各青年部の会長さんとのトークコーナーです。

今回は京都陶磁器卸協同組合 青年部会 会長の三谷 幸史氏にお話を伺いました。

其の三十九

京都陶磁器卸協同組合 青年部会 の巻



取材の雰囲気



会長の 三谷 幸史 氏



野本会長とがっちり握手

野本 今回お尋ねしたのは京都陶磁器卸協同組合 青年部会 の三谷 幸史会長です。陶磁器卸さんの会長さんというよりは、友好団体の京都伝統産業青年会の副会長としての印象が強いですが…

三谷 本当ですね(笑)

野本 今日は、京都陶磁器卸協同組合 青年部会さんの代表ということでのお話、よろしく願います。

まず最初に青年部のご紹介をお願いしたいのですが…

三谷 京都陶磁器卸協同組合 青年部会は、1980年、親組合の30周年の年に設立されました。今年で28年目になります。

現在は他の青年部さんと同じく会員数が減少し、会員数は9名、それにOBさんなど4名に賛助会員として青年部に残っていただいています。

野本 「陶磁器卸」ということは、お仕事は作ることでなくて、販売されることなんですよええ。

三谷 その通りです。我々は陶器、磁器を専門店さんや問屋さん、時には直接お料理屋さんなどに卸す場合もありますが、作っているのは、いわゆる「工部」の方々ですね。

野本 ただ単に販売するというだけではなく、作家さんに「こういうものを作って欲しい」というような、プロデューサー的なお仕事も多いのでは?

三谷 そうですね、以前はそういうことも多かったですね。

野本 そういったお仕事柄を生かして、今期我々が取り組んだ「新連携ビジネスモデルの構築」にも、今後は是非お力を貸していただきたいと思います。

三谷 魅力的なお話ですね。京都青年中央会は異業種が集まっている事がひとつの魅力。それを活かさない手はないと思いますし、我々も何かお役に立てるのであれば、こんな素晴らしい事はないと思います。

野本 ありがとうございます。青年部さんのお話に戻します。事業としては、どんな事をされておられますか。

三谷 ほぼ2ヶ月に1回の例会をはじめ、伝統産業青年会への事業に参画する事が多いですね。あと、独自の事業としてはボウリング大会を開催しました。また、全国の陶磁器産地の青年部で作る日本陶磁器卸商業協同組合連合会青年部の理事会、これは全国持ち回りで開催しているのですが、今年度は11月に京都で開催しまして、そのお世話をさせていただいた事で、全国の同業者とのつながりが出来たのは有意義でした。

野本 人数が少ない割には、活発に活動していらっしゃるようですね。その活発さを、ぜひとも京都青年中央会にも向けていただきたいと思います。

三谷 そうしましたか…。そうですね、今年からは青年中央会の事業にも積極的に参加させていただこうと思います。

野本 この4月の総会で、私の会長としての任期は満了しますが、そのあとを堀井副会長が新会長として引継ぎ行ってくれる予定になっています。今まで我々に対していただいたご協力を、堀井新体制にも引き続きよろしくお願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございます。

(取材 平成20年4月9日(水)・文 京都青年中央会 情報企画委員会 北村 泰一郎 特派員)

会長引き継ぎ対談

いま

あした

現在から未来へ

平成20年4月25日(金)の通常総会からスタートする京都青年中央会 第14期新体制。その第14期会長に就任予定の堀井 聖介 氏と第13期の2年間会長を務められました野本 浩司 氏にお話をいただきました。

堀井

野本会長、2年間お疲れ様でした。私も2年間、野本会長のもと副会長を務めさせていただきましたが、2年間会長を務められて、いかがでしたか？

野本

そうですね、とってもハードでしたが、素晴らしい人々と出会うことができ、私の人生にとって掛け替えのない2年間でした。



京都青年中央会
第13期会長 野本浩司

1年目は「新連携によるビジネスモデルの構築」をテーマに活動を推進しましたが、様々な連携のシーズを見つけることができました。ただ、どの青年部さんもニーズがあっても、連携の一步を踏み出すのが難しいですね…お任せするだけではなく、京都青年中央会が積極的にコーディネートしていく必要があります。

2年目は「連携力の発信」をテーマに、京都青年中央会の思いを全国の青年中央会や友好団体に発信していきましたが、CAPフェスタはその最高の舞台となりましたね。その後お会いした全国の皆さんからも「京都は凄いこんなことができるの!」と絶賛して頂きました。

その他には、バスを仕立てて開催した舞鶴での青年部講習会やサプライズいっぱい25周年記念事業もいい思い出として残っています。

第12期五十嵐体制で築かれた委員会制も完全に機能し、支えて頂いた理事の皆さんの総力で会長を務めさせて頂けたものと、感謝の気持ちでいっぱいです。

野本

これから2年間、堀井さんには私の後を受けて会長を務めていただく訳ですが、どんな2年間、どんな京都青年中央会にしたいとお考えですか？

堀井

まず、平成20年度は「想いがかたち」(感謝・感動・絆・前進・必然)をメインテーマに、いろんなものに対する「想い」という部分に焦点を当てて、その中にある感謝や感動を「かたち」にする、そんな事業を展開していきたいと思います。

具体的には今までの役員、執行部主導の「トップダウン」形式の事業スタイルから、会員青年部の代表者さんと本会役員が共に事業の企画運営を行う、「ボトムアップ」形式での事業展開をしたいと思います。

より多くの皆さんと共にポジティブ(前進)な「想い」のもと、その事業を行う必然性を考えながら絆で結ばれる仲間とともに物事を作り上げ、その中で個人の資質向上も図りたいと思います。

それによって生まれる感謝・感動というものを何か目に見える「かたち」に作り上げることがひいては参加される会員さんのためにもなり、また未来の京都青年中央会のためにもなると思います。

野本

なるほど。堀井さんらしいビジョンですね。私も来期は監事という立場で京都青年中央会、堀井新体制を側面からサポートさせていただきます。ご活躍を心から期待しております。

堀井

野本会長のサポートは、非常に心強いです。まだまだわからない事ばかりですので、今後ともよろしく願いいたします。そして2年間、ご苦労様でした。



京都青年中央会
次期会長予定者 堀井聖介

編集後記

今期もCAPかわら版の発行にあたりご協力を賜りありがとうございました。紙面の大きさよりも記事(想い)が膨らみ、それを掲載するのは本当に大変でした。京都青年中央会は野本体制から堀井新体制へ移行して、「想いがかたち」になり、また新たなカラーを発揮していくかと思っています。今後、その皆さんで作上げた「かたち」をどんどん発信していければいいな~と思います。今後ともCAPかわら版ともども、よろしくお願いします。